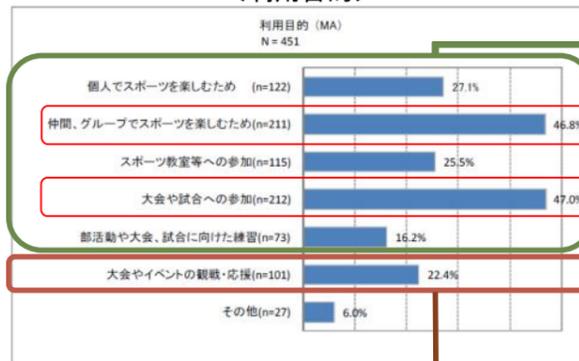


利用形態・利用ニーズからみた施設要件について
図 アンケート調査で得られた個人・団体の要望

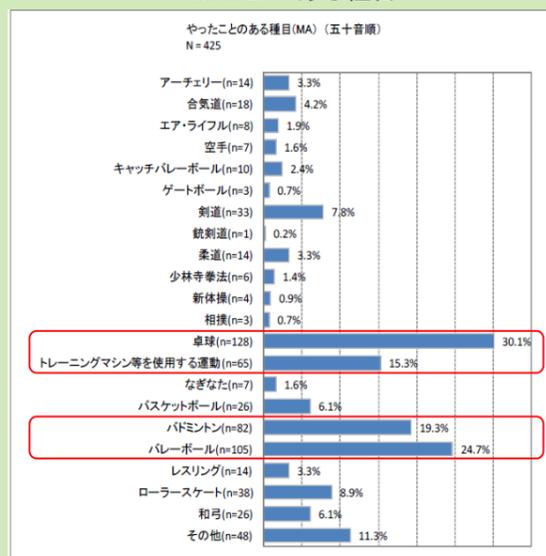
個人(一般利用者)

- 「仲間、グループでスポーツを楽しむため(46.8%)」、「大会や試合への参加(47.0%)」など、「する」スポーツが盛んである。

＜利用目的＞

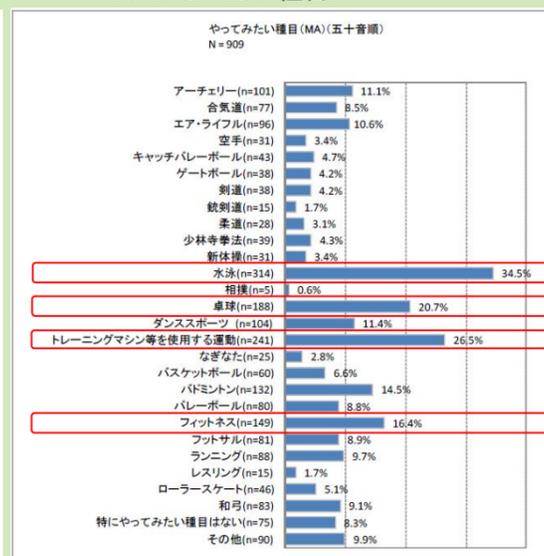


＜やったことのある種目＞



※15%を超える種目を囲んだ

＜やってみたい種目＞



※15%を超える種目を囲んだ

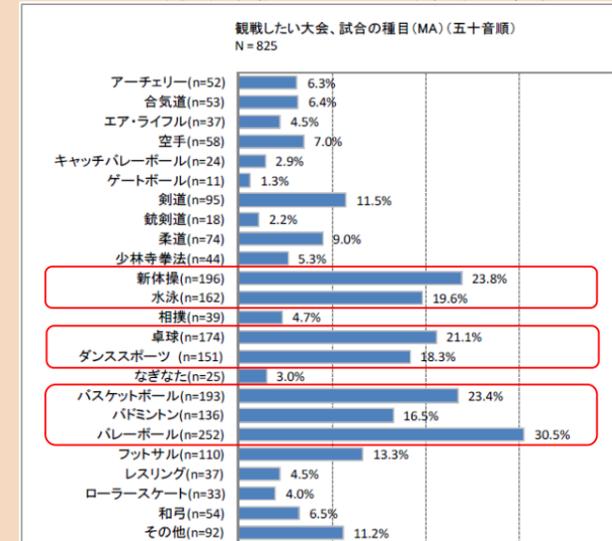
- 1) 調査期間：平成22年10月1日～10月22日
- 2) 調査方法：①個人用(設置、WEB、区政モニターによる回収。一般利用者。) ②団体用(区体育協会・加盟団体、SSC、レクリエーション協会等のスポーツ関連団体)
- 3) 回収結果：個人用 1,064人/1,071人(回収率 99.1%) 団体用 48団体/48団体(回収率 100.0%)

＜「みる」スポーツ＞

見たいスポーツ種類	件数
プロリーグ	103
実業団	44
大学リーグ	26
小・中・高の試合	10
社会人	4
障害者スポーツ	4
オリンピック	3
全日本	2
その他	2
合計	198

- 「プロリーグ」観戦の要望も高い。
- 観戦したい種目では、「バレーボール」、「新体操」、「バスケットボール」の順番。

＜今後、観戦したい大会、試合の種目＞

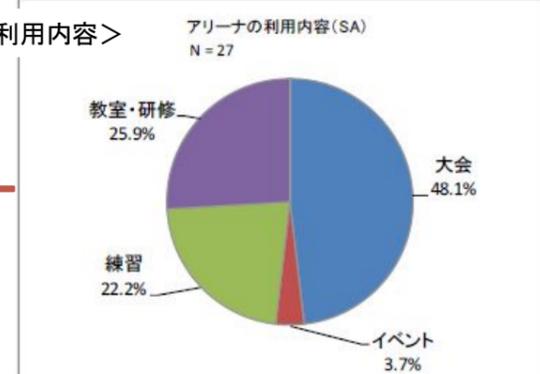


※15%を超える種目を囲んだ

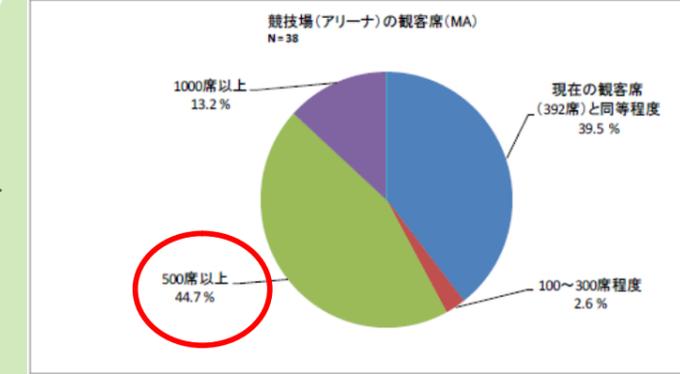
団体(スポーツ関連団体)

- アリーナは、「大会」利用が約50%、「教室、研修」「練習」がそれぞれ約25%ずつである。

＜アリーナの利用内容＞



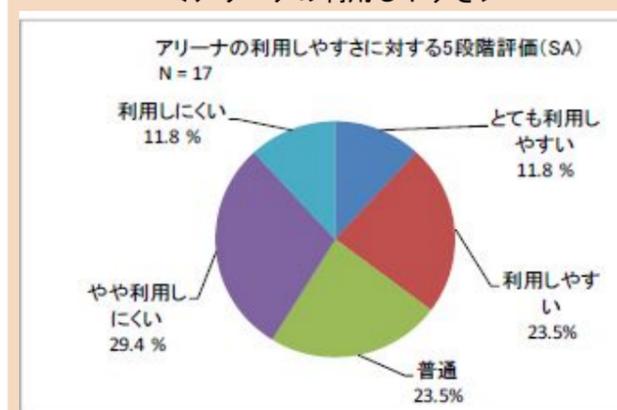
競技場(アリーナ)の観客席(MA)



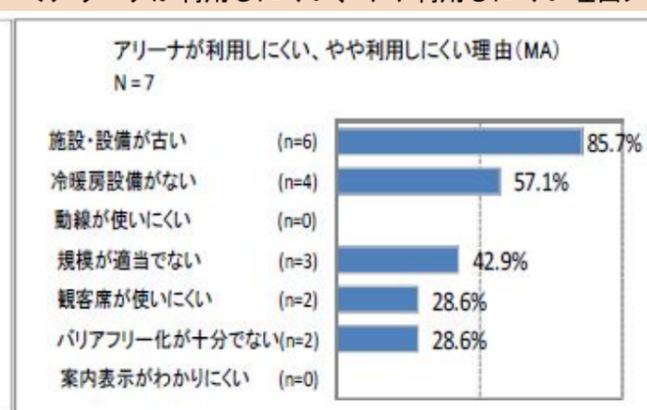
＜アリーナの観客席＞

- スポーツ関連団体が利用する場合においては、500席以上1,000席未満との回答が最も多い(44.7%)。
- ついで現在の観客席と同等程度という回答が多い(39.5%)。

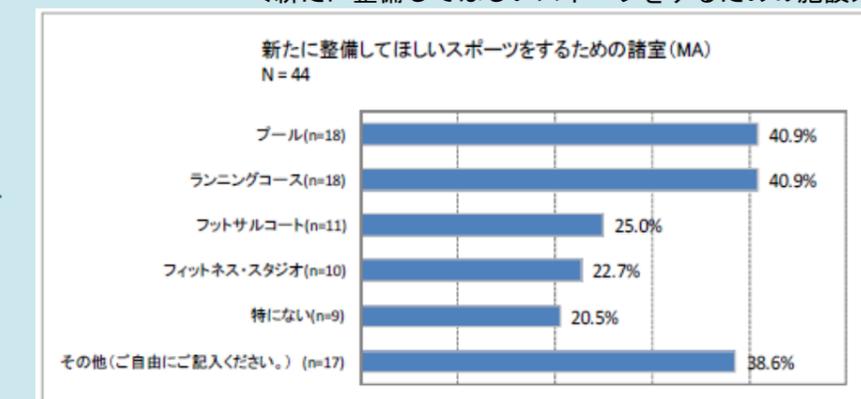
＜アリーナの利用しやすさ＞



＜アリーナが利用しにくい、やや利用しにくい理由＞



＜新たに整備してほしいスポーツをするための施設＞



その他	件
サブアリーナ	5
武道場	4
その他	8

- 新規整備の要望が高い施設は、「プール(約41%)」、「ランニングコース(約41%)」である。

※グラフ中、グラフタイトル右に記載される「SA」とは単一回答、「MA」とは複数回答であることを指す。

図 総合体育館で開催した大会および参加人数（平成22年度）

- ・平成22年度には、メインアリーナを利用した大会は73件開催されている。
- ・必ずしも「参加人数」が観客数も含んだ人数とはなっていないと想定されるが、練馬区総合体育館の観客席数392席を超える参加人数となる大会も15回開催されている。

種目	大会名	参加人数	開催日
バレーボール	バレーボール城北婦人オープン大会	180	平成22年4月13日
	バレーボールさわやか大会	250	平成22年5月14日
	バレーボール女性スポーツ大会	500	平成22年6月13日
	バレーボール女性スポーツ大会	250	平成22年6月15日
	バレーボール女性スポーツ大会	320	平成22年6月18日
	バレーボール女性スポーツ大会	330	平成22年6月20日
	SSC谷原Jrバレーボール交流大会	204	平成22年5月30日
	バレーボール区民大会	250	平成22年8月29日
	バレーボール区民大会	280	平成22年8月31日
	バレーボール区民大会	280	平成22年9月3日
	バレーボール区民大会	280	平成22年9月5日
	バレーボールいそじ大会	250	平成22年10月8日
	体協さわやかバレーボール大会	250	平成22年10月19日
	バレーボール城北地区対抗競技会	300	平成22年11月6日
	バレーボール城北地区対抗競技会	200	平成22年11月7日
	バレーボール家庭婦人親睦大会	220	平成22年11月9日
	小P連バレーボール大会	500	平成22年11月23日
	(都)ソフトバレーボール大会	150	平成22年12月23日
	練馬混合バレーボール大会	80	平成23年1月22日
	バレーボール城北6人制オープン大会	250	平成23年2月6日
	バレーボール会長杯争奪戦	300	平成23年2月20日
	バレーボール会長杯争奪戦	160	平成23年2月22日
	バレーボール会長杯争奪戦	250	平成23年2月25日
バレーボール会長杯争奪戦	300	平成23年2月27日	
バスケットボール	中体連バスケット第37ブロック大会	550	平成22年5月2日
	バスケットボールリーグ戦	270	平成22年7月25日
	バスケットボールリーグ戦	270	平成22年8月15日
	バスケットボールリーグ戦	270	平成22年8月22日
	中体連バスケットボール区民大会	630	平成22年9月4日
	中体連バスケットボール区民大会	400	平成22年9月11日
	バスケットボール区民大会	280	平成22年9月19日
	バスケットボール区民大会	250	平成22年9月23日
	バスケットボール区民大会	170	平成22年9月26日
	バスケットボール区民大会（高校女子の部）	180	平成22年10月1日
	バスケットボール区民大会（高校女子の部）	200	平成22年10月3日
	卓球	卓球区民大会	350
卓球後期新人戦		350	平成23年2月11日

種目	大会名	参加人数	開催日	
バドミントン	バドミントン会長杯	120	平成22年4月18日	
	バドミントン会長杯	100	平成22年4月25日	
	中体連バドミントン大会	600	平成22年5月15日	
	バドミントン女性スポーツ大会	178	平成22年6月4日	
	バドミントン女性スポーツ大会	100	平成22年6月6日	
	バドミントンMI Xオープン大会	250	平成22年7月4日	
	バドミントンスポーツ少年団大会	200	平成22年7月18日	
	バドミントンBブロック選手権大会	700	平成22年7月19日	
	バドミントン区民大会	200	平成22年10月17日	
	バドミントン区民大会	200	平成22年10月24日	
	バドミントン区民大会	250	平成22年11月3日	
	バドミントン区民大会	100	平成22年11月14日	
	バドミントン区民大会	80	平成22年11月21日	
	バドミントン女性シニア大会	51	平成22年12月6日	
	バドミントン競技選考会（都民大会）	350	平成23年1月9日	
	(都)中体連バドミントン冬季大会	300	平成23年1月15日	
	バドミントン都民大会選考会	230	平成23年1月16日	
	バドミントン都民大会選考会	250	平成23年2月13日	
	ラケットテニス	ラケットテニス大会	105	平成22年5月23日
		ラケットテニス大会	81	平成22年10月31日
武道など	柔道区民大会	1,010	平成22年10月10日	
	剣道連盟大会	1,300	平成22年5月9日	
	剣道区民大会	1,500	平成22年9月12日	
	村上もとか杯剣道大会	230	平成23年2月5日	
	全関東銃剣道大会	250	平成22年9月20日	
	東日本銃剣道大会	700	平成23年3月6日	
	空手道連盟区加盟団体大会	55	平成22年7月11日	
	全日本Jr空手大会	1,500	平成22年12月19日	
	マス大山メモリアルカップ（極真カラテ）	300	平成22年8月1日	
	城北地区たい道大会	200	平成22年6月27日	
	ジュニアスリングオープン大会	350	平成22年11月27日	
体操	日本ブラジリアン柔術大会	800	平成22年8月8日	
	新体操アジアカップ国際交流会	400	平成22年12月11日	
ダンス	新体操アジアカップ国際交流会	600	平成22年12月12日	
	練馬公民館フォークダンス大会	200	平成22年10月23日	
その他	SSC谷原スポーツ交流会	260	平成23年1月30日	

※表中「参加人数」は、競技参加者数、観客者数の双方を示す場合と前者のみを示す場合がある。

出典：練馬区提供資料より作成

表 プロスポーツの興行等からみた競技種目別の施設要件（各団体の要望）

団体	種目	メイン施設※規模要件	その他施設要件（主なもの）
トップスポーツ団体（リーグ、機構、連盟等）	バレーボール	<ul style="list-style-type: none"> ・ プレミアリーグは3,000人、チャレンジリーグは1,000～2,000人の観客席（集客実績）。国際大会の開催に際しては、5,000人の観客が主要可能な施設規模が求められる。 <i>(参考) 学生の全国大会の場合でも3～4面の確保</i> ・ サブアリーナは、ボールを用いたウォーミングアップができる場として必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 更衣室は興行用更衣室と一般更衣室と区分。 ・ アリーナ等への一般動線と興行動線は区分。 ・ ミーティングルームは100人程度の役員が来場、作戦会議等の利用のため複数必要。 ・ 周辺に対する防音性能に配慮が必要。 ・ 大型バスの乗降が可能な駐車場の設置が必要。 ・ フロアと観客席の上方部との間での温度の格差を効果的に調整することが可能な冷暖房完備。 ・ 場内スピーカー等の音響設備や映像装置の整備が必要
	バスケットボール	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観客席は、2,000人程度以上（規定では3,000人以上）が目安。墨田区総合体育館は、メインアリーナとサブアリーナを可動壁で仕切る構造であり、一体として活用することにより、固定席1,500席、可動席500席に加えて約500の仮設席設置により合計2,500人収容の会場として活用されている。 ・ 観客数実績としては、1試合で、1,000人から2,000人程度の観客を見込んでいる。 ・ 国際試合を想定すれば、大田区のような4,000席を確保することができる会場であることが望ましい。大田区は、固定席2,000席、可動席2,000席で4,000人収容可能である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般の入り口、関係者の入り口を設けるなど、一般動線と興行動線の分離が必要。 ・ 搬入動線の工夫が必要（トラックの荷物をスムーズに搬入できるよう、エレベーターからフロアに流れるような構造）。 ・ 控え室、大会本部、チームロッカー、シャワー室、駐車場（大型バス用駐車場、関係者用駐車場、来賓用駐車場）が確保されることが望ましい。 ・ 国際試合の場合、ドーピング検査専用の施設が必要。 ・ 記者席の確保（20～30席程度）。 ・ フロアと観客席の上方部との間での温度の格差を効果的に調整することが可能な冷暖房完備。
	ハンドボール	<ul style="list-style-type: none"> ・ コートは、縦44m、横30mが必要（縦44mを確保できることが会場選定の基準）。 ・ ジャパンプレミアムリーグは4,000席必要（代々木体育館、東京体育館は10,000人、駒沢体育館は3,000人規模で、その中間である5,000人規模がない）。 ・ 1,500席では、興行としての収支が合わない。2,000～5,000人の観客席が必要。 ・ レギュラーシーズンの観客数は平均800人程度。東京都品川区をホームとする大崎電気の試合は1,500人程度の集客。 ・ サブアリーナはアップ場、インターバルのストレッチフロアとして必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議室は主催者用（40名、フロア隣接）、プレス用、VIP用、補助役員用が必要。 ・ 選手控え室は最低4つ（シャワー（一般とは別）、ロッカーつき）は必要。 ・ 一般の入り口、関係者の入り口を設けるなど、一般動線と興行動線の分離が必要。 ・ 興行誘致であれば、広めのロビー空間が必要（駒沢体育館はスペースが狭い）。 ・ 駐車場は大型バスが敷地内で乗降可能かつUターンが可能で4台分は必要。 ・ 音の跳ね返りに配慮した音響設計。
	フットサル	<ul style="list-style-type: none"> ・ 30メートル×50メートル程度のコートが必要。 ・ 2,000人以上の観客席が必要（府中市体育館は観客席が当初1,500席であり、申請を却下した。その後、府中市は観客席を増設し、基準をクリア） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 審判室、会議室、シャワー室等は必要。 ・ 一般の入り口、関係者の入り口を設けるなど、一般動線と興行動線の分離が必要。 ・ ドーピング検査専用の施設が必要。
	卓球	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7メートル×14メートルのコート10台分が必要。大きな大会では予備を含めて12台が必要。 ・ 大会では1,500～2,000人の集客がある。大会利用であれば、2,000～2,500人が望ましい。5,000席だと閑散とする。リーグ戦ではホーム会場に200～400人程度の集客がある。 ・ サブアリーナが無いところは大会では使用しない（大会では、100人程度が待機中となるため、バレーボールコート1面程度のスペースが必要）。 ・ メインアリーナとサブアリーナは同一フロアにあるほうが便利。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 更衣室、シャワールーム、電源などが必要。 ・ 記録、広報、総務等用の会議室（競技場から離れていないもの）が必要。 ・ 応援団用のバス2台、選手用のバス1台を収容できる駐車場が必要。 ・ 一般の入り口、関係者の入り口を設けるなど、一般動線と興行動線の分離が必要。
水泳団体	水泳	<ul style="list-style-type: none"> ・ プール公認規則で定められた水深及び規模が必須（国体、選手権） 水泳：水深1.35m ※50m一般の場合。 水球：水深2m シンクロ：50mプール、水深2～3m 飛び込み：高さ10m、水深5m ・ 大規模な大会開催では50mプール2面以上が望ましい。 ・ 可動床、可動壁を備えたプールは利便性、汎用性が高い。 ・ 全国大会、国体レベルでは、3,000席程度の観客席が必要（仮設を含む）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国体などの大規模な大会の場合、中継車用のスペースが必要。 ・ 全国大会の場合、ドーピング検査用のスペースが必要。

※メイン施設とは、アリーナ（アリーナ、サブアリーナ、観客席）、プールを指す。

(参考) プロスポーツの開催状況

所属	チーム名	本拠地施設(都内の主な試合場)2010-2011	本拠地施設(都内の主な試合場)2011-2012	試合数	ホームゲームの都内開催数
バスケット JBL	トヨタ自動車アルバルク	<ul style="list-style-type: none"> ・駒沢オリンピック公園総合運動場体育館 (5) ・早稲田大学記念会堂 (1) ・府中市立総合体育館(郷土の森総合体育館) (2) ・<u>墨田区総合体育館 (6)</u> ・国立代々木競技場第二体育館 (4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・府中市立総合体育館(郷土の森総合体育館) (4) ・国立代々木競技場第二体育館 (5) ・<u>墨田区総合体育館 (3)</u> ・駒沢オリンピック公園総合運動場体育館 (2) 	42 試合/1 チーム	<ul style="list-style-type: none"> ■2010-2011 レギュラーシーズン 18 試合 ■2011-2012 レギュラーシーズン 14 試合
	日立サンロッカーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・国立代々木競技場第二体育館 (9) ・<u>町田市立総合体育館 (1)</u> ・<u>墨田区総合体育館 (2)</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・国立代々木競技場第二体育館 (8) ・<u>墨田区総合体育館 (7)</u> 		<ul style="list-style-type: none"> ■2010-2011 レギュラーシーズン 12 試合 ■2011-2012 レギュラーシーズン 15 試合
バスケット bjリーグ	東京アパッチ	<ul style="list-style-type: none"> ・国立代々木競技場第二体育館 (24) 	10月開幕。開催場所不明	52 試合/1 チーム	<ul style="list-style-type: none"> ■2010-2011 レギュラーシーズン 24 試合
フットサル・Fリーグ	府中アスレティックス	<ul style="list-style-type: none"> ・府中市立総合体育館(郷土の森総合体育館) (8) ・駒沢屋内球技場 (1) ・駒沢体育館 (2) ・<u>墨田区総合体育館 (1)</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>町田市立総合体育館 (2)</u> ・<u>墨田区総合体育館 (2)</u> ・府中市立総合体育館(郷土の森総合体育館) (7) ・駒沢体育館 (1) 	24 試合/1 チーム	<ul style="list-style-type: none"> ■2010-2011 レギュラーシーズン 12 試合 ■2010-2011 レギュラーシーズン 12 試合
バレーボール女子プレミアリーグ	NEC レッドロケッツ	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>町田市立総合体育館 (2)</u> 	都内でのホームゲームなし	21 試合/1 チーム	<ul style="list-style-type: none"> ■2010-2011 レギュラーシーズン 2 試合 ■2010-2011 レギュラーシーズン 0 試合
バレーボール男子プレミアリーグ	FC 東京	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>墨田区総合体育館 (2)</u> ・<u>東京体育館 (2)</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>墨田区総合体育館 (2)</u> ・<u>東京体育館 (2)</u> 	28 試合/1 チーム	<ul style="list-style-type: none"> ■2010-2011 レギュラーシーズン 4 試合 ■2010-2011 レギュラーシーズン 4 試合
バレーボールチャレンジリーグ	東京ヴェルディバレーボールチーム	<ul style="list-style-type: none"> ・稲城市総合体育館 (2) ・羽村市スポーツセンター (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>町田市立総合体育館 (2)</u> ・稲城市総合体育館 (2) 	10 試合/1 チーム	<ul style="list-style-type: none"> ■2010-2011 シーズン 3 試 ■2011-2012 シーズン 4 試合
バレーボールチャレンジリーグ	GSS サンビームズ	—	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>江戸川区スポーツセンター (2)</u> 	22 試合/1 チーム	<ul style="list-style-type: none"> ■2011-2012 シーズン 2 試合
日本ハンドボールリーグ	大崎オーソル ※東京都外をホームとするチーム。	<ul style="list-style-type: none"> <参考>関東でのホームゲーム ・横浜文化体育館 (1) ・市川市塩浜市民体育館 (1) ・<u>墨田区総合体育館 (1)</u> ・和光市総合体育館 (1) 	<ul style="list-style-type: none"> <参考>関東でのホームゲーム ・市川市塩浜市民体育館 (2) ・和光市総合体育館 (1) ・富士見市立市民総合体育館 (1) 	14 試合/1 チーム	<ul style="list-style-type: none"> ■2010-2011 シーズン 都内開催は 0 試合、ホームゲームは 7 試合 ■2011-2012 シーズン 都内開催は 0 試合、ホームゲームは 7 試合

※ 本拠地施設(都内の主な試合場)の欄の括弧内の数字は開催回数を示す。

※ 施設名に下線がある施設は、23区における総合体育館の概要について(資料3-3)に例示されている施設を指す。